

## 交流集会2 企画者の立場から

### 仲間同士で学び合うために —管理者、中堅、新人の視点から—

Learning together with colleagues, from the perspectives of administrators,  
mid-career individuals, and newly-recruited nurses

石 葵<sup>1)</sup>  
Aoi Seki

河村 圭美<sup>2)</sup>  
Tamami Kawamura

#### 1. はじめに

私たちは、第3回神戸看護学会学術集会で交流集会を担当いたしました。そのことについて、報告させていただきたいと思います。

テーマ：「仲間同士で学び合うために —管理者、中堅、新人の視点から—」

日時：2018年10月27日（土） 14：50～16：10  
場所：W22

交流集会は午後のプログラムであり、また、テーマにおいてもどれだけの方が興味を持ってくださるか不安がありました。しかし、おかげさまで私たちの予想を超えた参加があり、ボランティアの学生さんが多めに机をセッティングしてくれていたのですが、その分までいっぱいになりました。

この交流集会には、看護学生、スタッフナース、主任、師長、副看護部長、看護部長といった看護管理職、様々な立場の看護職が参加してくださり、盛況のうちに終えることができました。

#### 2. 交流集会を企画するにあたって

2月の企画委員会にて、私たちが交流集会を担当することになりました。企画委員の中に4名の臨床の看護師が含まれていたのですが、その4名で交流集会2つを企画することになりました。しかし、全員が交流集会の企画は初めての経験です。テーマをどのように決めたらよいかも分かりません。戸惑う

なか担当としてのスタートを切りました。

自分たちにできることは、臨床看護師ならではの視点を活かして企画すること。交流集会1も2も、現場の発想から企画したものです。この交流集会2の企画のベースには、私たちが日々の現場の中で、仲間たちからの多くのことを学んでいる経験がありました。毎日、忙しく過ごしていく中、忙しくても笑顔絶やさずことなく患者さんと接する2年目の看護師。患者さんの最期に十分な看護ができなかったと涙を流す5年目の看護師。毎日の看護実践でともに働く仲間から、「学ぶこと」「はたと気づかされること」がたくさんあります。また、同様に自分自身が褒められたり、見習いたいと言われたりした経験もあります。看護師は皆、少なからずそのような経験をしているのではないかと思います。そこで、自分たちと同じような経験があるのか、まずは身近なところからリサーチ。管理職の先輩や数名の看護師にインタビューしてみたところ、多くが先輩、後輩、上司、部下にかかわらず、仲間から学んだ経験があることが分かりました。また、文献においても、教師が同僚から学ぶことで、専門性を高めていることが分かりました。

看護師が同僚から学んでいることも、褒められる等フィードバックされたことも、自分自身が看護職として大切にしていることにつながっているのではないかと思います。交流集会で話し合うことにより、

1) 三菱神戸病院 Mitsubishi Kobe Hospital

2) 神戸市立西神戸医療センター Kobe City Nishi-Kobe Medical Center

意識化し、自分の専門職としてのあり方を考えられるのではないかと考えました。

しかし、自分の学んだ経験を意見交換するだけで参加者は学べるだろうか？テーマは決定したものの、会の進め方でまた悩みました。そこで、企画委員会で委員の先生方の意見をいただき、学び合っていることをもとに、「明日からできること」を交流集会で考えてみることにしました。その際、スタッフ、管理者、教育担当者、どの立場においても、それぞれの立場から「明日からできること」はあるのではないかと。

学会当日までは、企画内容の検討、抄録の作成、話題提供者への依頼、当日の進行の想定を企画委員の皆様のお力を借り進めていきました。なかでも、企画委員の臨床看護師4名で、仕事の合間をぬって集まり、話し合いました。“臨床チーム”として話す機会があったことは、交流集会についてだけでなく、それぞれが所属する施設における看護実践や教育にまで話題が及ぶことが多かったため、おおいに学ぶ機会になりました。まさに仲間となり、学び合えたと思います。

いちから始めた企画を形にするべく、参加者と経験を共有できることに期待し、そして、学会参加で何かを得て帰っていただきたいとの思いを抱き当日を迎えました。

### 3. 交流集会

まずはじめに、新人の立場から北野さんにお話しいただきました。先輩、教育担当者、同期から学んだことをお話しくださいました。質疑応答では北野さんが理想の看護師像を話され、「患者さんに寄り添う看護師」でありたいという言葉に、多くの会場参加者が大きく頷いていました。中堅看護師の立場からは谷さんにお話しいただきました。後輩である新人看護師、先輩から学んだことを、ご自身の経験したエピソードとともに紹介していただきました。谷さんの相手を一人の人として尊重し学ぶ姿勢に、心が洗われる思いがしました。最後に、管理者の立場から、病棟課長である國枝さんからお話しいただきました。國枝さんには、上司のあるべき姿とともに、今年度異動した新しい環境から学んでいることについてお話しいただき、上司が部下から学んでいること、勇気づけられていること、仲間同士学ぶことで看護組織が支えられていることを聞くことがで

きました。

3名の発表ののち、参加者でグループディスカッションを行いました。まず、一つ目として学ぶ立場から「同僚、先輩、後輩から学んだこと」、学ばれる立場から「褒められたこと」を話し合いました。参加者は皆、活発に意見交換をしていました。

次に、明日からできることは何か、それぞれのグループで考えていただきました。ディスカッションは時間が足りないほど盛り上がり、終了時間を伝えてようやく終わったほどでした。交流集会在アットホームでありながら活気ある意見交換ができたことに、手ごたえを感じました。

教育講演にて勝原先生は、「同僚性とは、互いが対等の関係であることを前提に仲間を尊重し成長を助けること、そして看護に対して深いレベルで共通理解を得られる関係性」と話されていました。この交流集会に参加してくださった皆様が、仲間と学びあえる職場づくりを築いていかれることを切に願っています。

また、この交流集会で発表いただきました北野様、谷様、國枝様、ご参加いただいた皆様、学会企画にご尽力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

最後に、発表者の3名から寄せられた感想をご紹介します。

神戸市立医療センター 西市民病院 北野 美咲

今回私は初めて“学会”という場に参加させて頂きました。様々な年代・役割の先輩看護師たちの発表を聞いたり、交流を深めたりする機会は、看護師として働き出してから少なく、貴重な時間となりました。また初めての学会で自分が発表者になるという経験ができたことはとても大きな経験となりました。私が想像していた学会とは、とても厳粛なもので、私のような若輩者が発表する場ではないと思っていました。ですが、実際に発表する場では、自身が卒業した学校でもあったことからアットホームな雰囲気、なにより参加者の方々が興味を持って私の話を聞いて下さったことに勇気を頂けました。

発表の準備では、自身が1年目のときに関わった人たちからの学びについて文章でまとめました。新人看護師時代を改めて振り返るという機会を得られたことで、「自分はこんなに多くの人たちに支えられたからこそ、今も看護師として働くことができているのだな。」と、感じ、仕事への活力へと繋が

ました。

この学会では明日からすぐ実践しようと思えるような学びが多くあり、私にとって得るものが多かったです。このような学会に参加する機会を頂けて本当にありがとうございました。

神戸市立西神戸医療センター 谷 知美

私は、この度のお誘いをいただいた時、面白そう~と思ってすぐに参加の旨をお返事しました。しかしそれからよく考えてみたら、人前で話すのはそれほど得意ではないし、「神戸看護学会」と検索してみると立派なホームページが出てきたので、楽しみに思いながらも段々と不安になってきました。

しかし、準備の段階から企画者のお二人が相談に乗ってくださり、当日は参加された皆様も温かい雰囲気を作ってくださったので、緊張しすぎずに話せたと思います。グループワークでは、いろいろな立場・環境で働いておられる方々からの興味深いお話を聞くことができ、あっという間でした。今回の交流集会そのものも、周囲から学ばせていただく大きな機会だったと思います。

これからも、この学会が、地域に根ざしたアットホームな雰囲気はそのままに、より多くの方が参加されて、学びが広がっていけばいいなと思います。

私事ですが、出産・育児のためにしばらく看護の現場を離れることとなります。新たな人生経験を重ねて、看護師として成長していきたいと思っています。この度は貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

神戸大学医学部附属 国際がん医療・研究センター  
國枝 卓子

今回、管理者の立場から「仲間同士学び合うために」という内容で話をしてほしいという依頼を受けました。正直なところ私なんかで良いのかしら?と思いましたが、このような機会もそうそうないかもしれないので、良い経験だと思い受けさせていただきました。

しかし、受けてはみたもののどのようなお話が良いのかよく分からず、担当の方とお話しさせて頂いたり、同僚の師長に意見を聞いたりしてみました。自分でも看護管理者が部下から何を学んでいるかを文献検索やネット検索したみたり、日々のスタッフとのかかわりの中で「今日は何か学んだだろうか?」と振り返ってみたりもしました。このように色々な情報を集めていくうちに、学ぶ=教育、学習などのように難しくとらえていたことに気づきました。そして担当者の方とお話しさせていただいた時に、「スタッフの言葉で気づかされたこととか、あっ、そうなんだ、と思えたこととでも良いんです」と言われ自分の中で考えがまとまっていきました。

当日はもちろん緊張はしましたが、参加人数がそれほど多くないことが、かえってアットホームな雰囲気となり、緊張がほぐれたと思います。他のゲストスピーカーの方の話を聞き、やはり立場や年齢が異なると仲間から学ぶことにも違いがあるんだということが再確認できました。グループワークで他施設の方たちの話を聞いたのは貴重な経験になったと思います。